

# 見た目は同じ？でも、ちがうシダ



館長 村上 哲明

## ■形で識別が難しいシダ植物

植物は、動物に比べると形が単純ですが、中でもシダ植物は見た目で種を見分けるのが難しいです。シダは花を咲かせず、虫などの目をもつ動物に花粉を運んでもらうなど、別の生き物から見た目で区別される機会がないため、「種ごとに違う形」を発達させる必要もないのです。

## ■見た目では区別できないシダ植物の種

私は、見た目ではまったく区別できない種—「隠蔽種（いんぺいしゅ）」—が、これまで同じ種と考えられてきたシダの中に、たくさん含まれているのではないかと考えました。そこで熱帯地域に広く分布するシマオオタニワタリ（*Asplenium nidus* L.）と呼ばれてきたシダについて、DNAの解析やかけあわせ実験を行いました。するとDNAが異なり、**交配しても子供を残せない50以上の種が含まれている**ことが分かったのです。

## ■シマオオタニワタリの隠蔽種の異なる生き方

これらの隠蔽種は、DNAでしか識別できなかったもので、正直なところ最初は、私も実感がわきませんでした。ところがインドネシアでの野外調査で、同じ木の上の方の明るくて乾いた場所と下の方の暗くて湿った場所に、別の隠蔽種が明確に棲み分けているのを見たとき、「これらは別の種だ」と納得できました。**研究室のデータと熱帯の森の中の風景が初めて一本の線でつながった瞬間で、とても感動しました。**

写真：  
同じ木の上と下で、  
見た目がそっくりの  
隠蔽種（赤と青）が  
棲み分ける

